



みんながチャレンジ 明日に向かって 本気でGO!

横浜市立本郷小学校  
学校学年便り 5月号  
令和8年4月30日

# 本郷の輝き

横浜市栄区中野町16-1 電話 891-6813

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongo/>

## 「自立は、つながりの中で」

校長 小林 真

朝、旗振りをしていると、学校から少し離れた場所で、子どもが見えなくなるまで、いつまでも見送っている保護者の姿を見かけることがあります。子どもは、いよいよ学校に入るという直前でまた保護者の方を振り返り、その姿を見付けるとほっとしたような表情で最後に手を振って校門をくぐっていきます。

私にはこの場面が、子どもが大人の支えを得て、前に歩き出した瞬間に思えます。子どもにとって、学校へ向かう一歩は、小さな「自立」の一歩です。しかしその一歩の後ろには、こうして静かに見守る大人の存在があります。ただ信じて送り出す。その姿に、深い愛情や覚悟を感じます。

小児科医の熊谷晋一郎さんをご存知でしょうか。脳性まひの当事者として、日常生活の多くの場面で介助を受けながら生活している彼は、その経験をもとに、「自立とは、依存先を増やすことである」と述べています。

熊谷さんは、かつて「できるだけ人に頼らずに生きることが自立だ」と考えていた時期があったそうです。しかし、実際には多くの人の力を借りながら生活する中で、「頼れる人が増えることこそが、自分の世界を広げてくれる」と実感するようになったといいます。依存することは弱さではなく、他者との関係をひらき、自分らしく生きるための力なのだと言っています。

私はこの「依存先」を、「つながり」と言い換えて考えたいと思います。

子どもは、家族とつながり、友達とつながり、地域とつながり、そして学校とつながりながら育っていきます。人間は社会的な生き物であり、多くのつながりの中にいるからこそ、安心して挑戦し、失敗し、また立ち上がることができます。自立とは、決して一人で立つことではなく、支え合える関係の中で、自分の力を発揮していくことなのだと思います。

朝、静かに子どもを見送るその姿から思うのは「手を離しても、つながりは続いている」ということです。その安心が、子どもの新しい一歩を支えています。

学校もまた、子どもたちにとっての大切な「つながりの場」でありたいと考えています。一人ひとりが誰かとつながり、安心して過ごせること。その中でこそ、自分らしく生きる力が育っていきます。

本校では、人権教育と特別支援教育を基盤とし、誰もが安心して楽しく過ごせる学校づくりを進めております。子どもたちが、多くのつながりの中で自立していけるよう、これからも関係性を大切にした教育を進めてまいります。今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます